

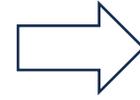
陸上競技（リレー） 細則の「または」「ただし」のかかり方

【R 6 年度版】

リレーは、「地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」、「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」又は登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合に限り、地域クラブ活動の所属で参加することができる。

【R 7 年度版】

リレーは、「地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」、または、「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」で参加することができる。ただし、複数の中学校から選手を選抜等によって編成されチームは除く。または、登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合に限り、地域クラブ活動の所属で参加することができる。



「ただし、複数の中学校から選手を選抜等によって編成されチームは除く」はそれ以前のA及びBにかかっている、と判断するのが妥当。Cにはかからない。AまたはBをそのまま読むと、読みにくいので「及び」としたほうが理解しやすい。

A：地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動

B：地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動

又は

C：（A・B以外の地域クラブ活動で）登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合

↓
() 内が主語になるのが妥当



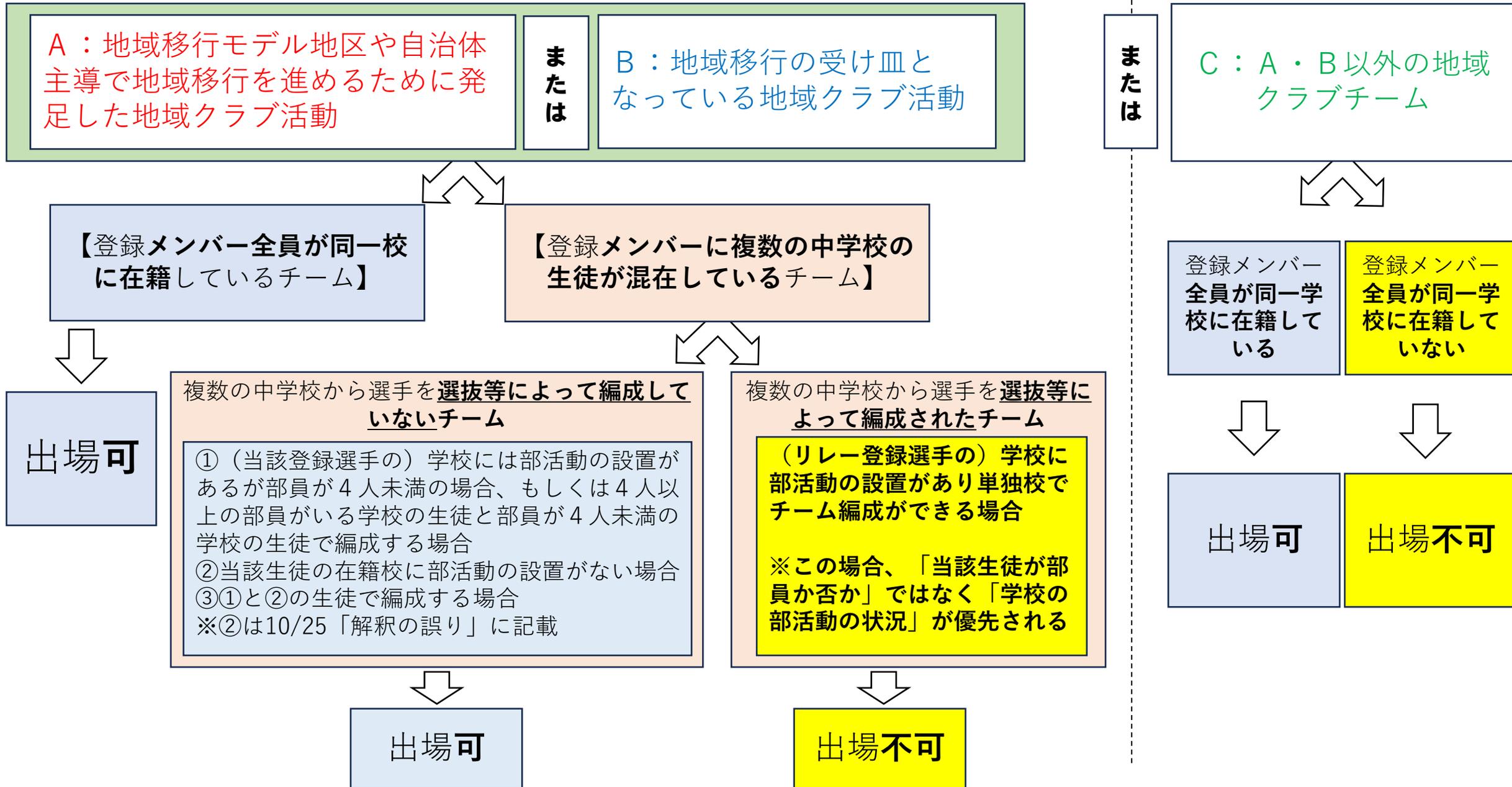
文脈は若干変わっているが、「又（また）は」がかかる文言は変わらない（はず）。万が一変わっているならば大きく趣旨が変わる。

※「または」は文脈には影響しない

AまたはBまたはC = AかBかC

つまりAもBもCも条件付きでエントリーは可能

陸上競技（リレー） 10/25付（補足）の内容



【リレー（駅伝）に参加できる地域クラブチーム】

①：地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動

②：地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動

※当該クラブが①②のいずれかに該当するか否かの判断は各都道府県中体連の判断基準に拠る

※①②のいずれも「複数の中学校から選手を選抜等によって編成されたチーム」は除く

<①②で認められるケース>

ア：リレーの登録メンバーの学校には部活動の設置があるが部員が4人未満の場合、
もしくは4人以上の部員がいる学校の生徒と部員が4人未満の学校の生徒で編成する場合

イ：部活動の設置がない学校に在籍する生徒でリレーメンバーを編成する場合

ウ：アとイの生徒でリレーメンバーを編成する場合

エ：リレーの登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合

<①②で認められないケース>（上記下線部に該当するケース）

ア：「部活動の設置があり単独校でリレーのチーム編成ができる学校に在籍する生徒」を
含んだ編成の場合

※リレーのチーム編成ができるか否かの判断は「部員が4人以上か4人未満か」に拠る

※ただし、「部員が4人以上の学校の生徒」と「部員が4人未満の学校の生徒（部活動がない
学校の生徒）」で編成する場合は<認められるケース：ア>に含まれる

③：①②以外の地域クラブ活動

※③の場合はリレーの登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合に限り認める

【駅伝】

上記の「リレー」を「駅伝」に置き換え、「4人」を「6人（男子）、5人（女子）」に置き換える。